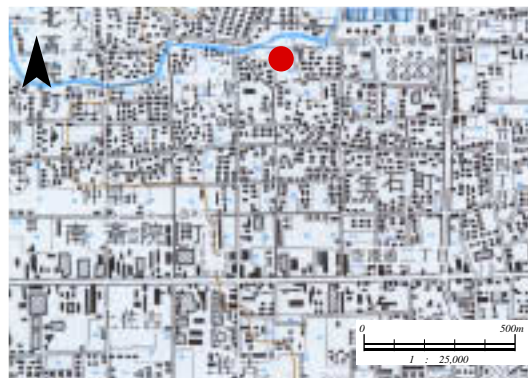
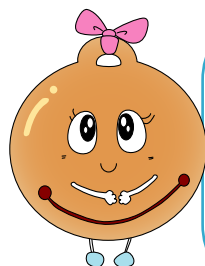


南 齋 院 土 居 北 遺 跡

事業名 宮前川埋蔵文化財調査
委託者 愛媛県(松山地方局)
受託者 (財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
面積 1次調査 2,236㎡
2次調査 650㎡
期間 1次調査 平成12年5月～10月
2次調査 平成13年4月～6月
所在地 松山市南齋院町



(12年度調査区全景東より)



12年度の調査では柱穴や井戸、墓とともに幅約2メートルの屈曲する大きな溝が検出されました。遺物としては土師器はじきの皿、備前焼びぜんやきなどの国産の陶器や中国産の青磁・白磁などの陶磁器、木製の日用品のほかに紀年銘のある木簡もっかん(塔婆とうば)も発見されました。

今年度の調査でも同時代の遺構や遺物が出土しており、中世(鎌倉～戦国時代)にもこの地域に人々が生活していたことが確認できました。

現在の地割

土鈴出土状況



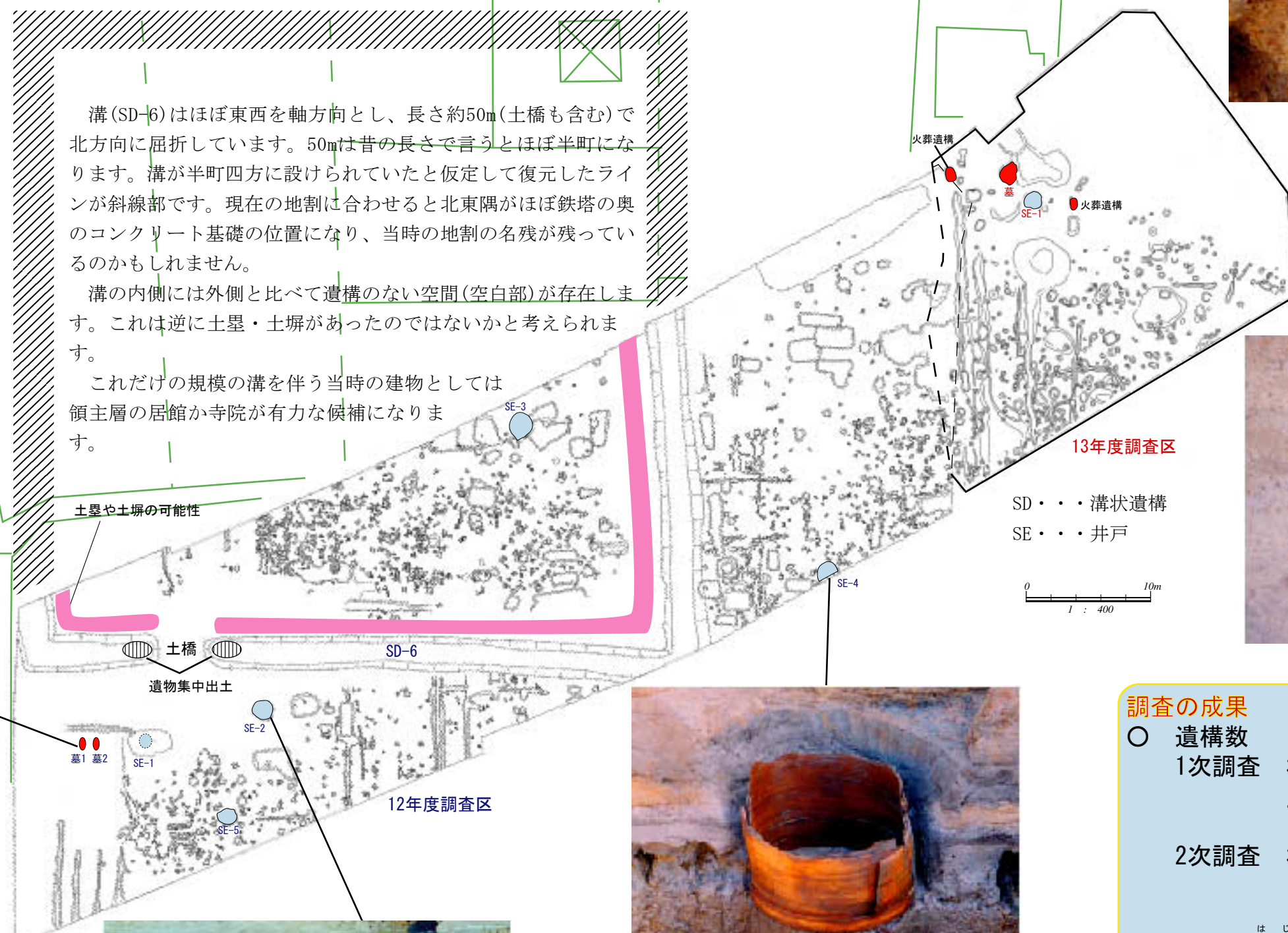
SD-6からは土鈴の他にも下駄や漆椀などの日常生活用品が出土しました。



墓1・墓2はほぼ平行に並んでおり、被葬者はなんらかの関係をもった人物であったのでしょうか。墓の形状や人骨の出土状況から考えて北枕に寝葬されていたと思われます。

副葬品としては、使用痕のほとんどない土師質の坏が多数出土しました。その中には墨書されているものもあり、特に底面に『ニ』と書かれているものが複数見られました。

また、13年度調査区からは火葬墓、もしくは火葬遺構と思われる遺構も検出しました。



13年度の調査では柱穴の中にお碗やお皿を入れているものがよく見られました。

これは、柱の廃絶時にお祭りとして入れたものだと考えられます。



2次に渡る調査の結果、合わせて6基の井戸が検出されました。どれも遺構面から50cm~1m下、灰色の粘土層直上の青色の砂層まで掘り下げられていました。

上部に壁の崩壊を防ぐための石組が組まれているものが多く、最下部には井筒としての曲物まげものが良い状態で残っていました。

調査の成果

- 遺構数

1次調査	柱穴1192	井戸5	墓3
	土坑84	溝状遺構17	
2次調査	柱穴375	井戸1	墓5
	土坑25	溝状遺構10	
- 遺物

土師質土器	備前焼	かめやま
中国陶磁器	常滑焼	とこなめ
		木簡など
- ◇ 中世の集落の景観の復元
 - ・50m四方の方居館
 - ・集落の広がり
- ◇ 中世の葬送儀礼の形態の確認
 - ・埋葬形態の変遷
 - ・塔婆による追善様式

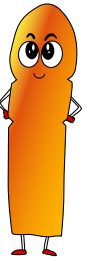


と ば
塔 婆

塔婆とはもともと梵語で塔を意味するストウーパの音字である率塔婆(そとば)の略です。今日では死者の追善のために戒名などを記して墓に立てる細長い板を言います。

本遺跡では12年度調査区SD-6より3点の塔婆を確認しました。当時の葬送儀礼の形態を知る上で貴重な資料といえます。その中で紀年銘の入った2点を下に図示します。

また、本遺跡では塔婆以外にも墨書の入った木簡が1点出土しています。



(日) a

b

c

卯 キヤ(空輪)

乙 カ(風輪)

丁 ラ(火輪)

乙 バ(水輪)

卯 ア(地輪)

之 種子

理 仏名

觀? 閻魔

正 院号

天 天王

王 王

院 像

天正十一年

四日

三

十 天正十一(癸未)年

六 ……1583年

S=2/3

(月) 表

永 禄 十 二 年

己 巳 年

永禄十二(己巳)年
……1569年

(月) 裏

法 秀 為

未ノ年

S=1/1

(日)-b

(月)-表

(月)-裏

赤外線写真